

## 第 21 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会議事概要

### I. 開催日時および場所

日時：2021 年 10 月 5 日（火）13:30～15:30

場所：Zoom によるオンライン会議

### II. 委員

別紙名簿の通り

### III. 資料

- 議事次第
- 参加者名簿
- 資料 1 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会委員名簿（2021/10/5 版）
- 資料 2 令和 3 年度「双葉郡児童・生徒数関係資料」
- 資料 3 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会（第 20 回）議事概要
- 資料 4 令和 3 年度双葉郡教育復興ビジョン推進体制・委員会等の構成、取組一覧
- 資料 5 令和 3 年度双葉郡教育復興ビジョン取組実施報告 0929
- 資料 6 大熊町の現状と課題
- 資料 7 【非公開】福島県双葉郡教育復興ビジョン推進計画書第三期（案）
- 資料 8 【非公開】双葉郡の教育に関するアンケート調査結果報告書（案）
- 資料 9 ふたば未来学園中学校・高等学校活動状況報告

### IV. 議事内容

#### 1. 開会

##### 1) 開会挨拶（秋元教育長 川内村教育長）

- オリンピック・パラリンピックは始終意見が交錯する中で開催されたが、国民に大きな成果が示され、復興の現場に立つ者として貴重な示唆を受ける機会となった。コロナ禍で教育活動は多くの制約を受けているが、各町村の教育課程に遅れは生じていない。
- あれから 10 年。平成 25 年 7 月に双葉郡教育復興ビジョンを策定、平成 26 年 4 月から双葉郡町村立小・中学校でふるさと創造学を開始、平成 28 年度からは推進計画を策定して各種事業を進めてきた。まだまだ復興途上にあるが、少しずつだが、着実に前進してきている。

##### 2) 委員自己紹介

#### 2. 前回（第 20 回）議事概要確認

- （全会）承認

#### 3. 議事

##### 1) 今年度の各取組実施状況について

- 富岡支援学校を推進体制図に追記。
- 教育長会では「教育復興ビジョン推進計画第三期作成会議」を4月より定期的を実施し、第三期案の作成を進めている。
- ふるさと創造学サミットは、12月4日（土）オンライン開催予定。是非委員の皆様にもご参加いただきたい。小学校絆づくり交流会は中止したが代替案を検討中。中高生交流会はオンラインで作家の林真理子さんと小泉進次郎環境大臣を講師に、「失敗したっていいじゃないか」というテーマで対談・質疑応答いただいた。
- ふるさと創造学教員研修会では國學院大學の田村学教授にオンラインで講演いただいた。ふるさと創造学について共通理解を図る場として定着してきている。
- 現場の先生方の提案から「学びが広がるオンライン勉強会」を開催。先生方のネットワークを形成し、ICTを活用することで極少人数によって生じるさまざまな課題を解消、教育活動を一層活性化するのがねらい。今後も定期的を開催予定。

(担当教育長より)

- (浪江町) 教員研修会はふるさと創造学の狙いや取り組み方について、その後の指導に大いに役立ったものだと考える。今後もふるさと創造学とともに、双葉郡教育復興ビジョン自体について、その背景等も含め研修できるような仕組みを考えていきたい。
- (広野町) 中高生交流会は講師の選定が大変良く、子どもたちも活発に参加できていたようだ。次年度は、ぜひ以前のような対面でわくわくした体験をさせたい。

## 2) 各町村教育委員会の現状と課題

- (川内村) この4月に義務教育学校を開校。教科担任制・教科センター方式の導入、GIGA スクール構想の実践等進めている。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの需要が多くなっているのが課題。移住・定住政策が進められているが、受け入れ後のしっかりしたフォローアップ、支援体制、サポート体制が定住につながる鍵ではないかと感じている。
- (浪江町) なみえ創成以外の小中学校9校はすべて閉校。なみえ創成は昨年度、ようやく30名を超した。わずかずつだが増加していることをうれしく思う。加配等のおかげもあり、少人数の良さを生かしながら多様な個性への対応に努めている。学習支援員探すのが難しい。請戸小学校が震災遺構として今年24日に開館予定。是非ご覧いただきたい。震災の記憶の伝承、防災意識を高めることにつながればと思う。
- (葛尾村) 帰村して5年3カ月、幼小中学校は再開して3年5カ月。子どもたちの数は少ないが、誰もが地域や学校への誇りを持ち、いきいきと学び輝く教育を行いたいと考えて取り組んでいる。少人数教育の課題克服のため、幼小中の交流・連携、地域や他校との交流などに重点を置いており、本ビジョンの取組は村には大きな力。今年度はコミュニティスクールのスタートを目指して準備を進めている。
- (双葉町) 震災後10年以上たってもまだ全町避難が続いている唯一の自治体。県内外で483名が区域外就学。現在はいわき市の仮設校舎で区域外就学20名を含む幼小中計42名で、柔軟な小・中連携による教育活動を進めている。学校教育を新たなまちづく

りの中にどのタイミングでどう位置づけるか、文化財の保管、特別支援教育の充実、コミュニティの再生等、検討が必要な課題や山積みだが、一つ一つクリアしていきたい。

- (大熊町)この3月に会津の大熊中学校仮設校舎を閉じた。本年度は幼小中合計14名、小学校校舎で中学生も一緒に教育活動を実施している。区域外就学は県外に241名、県内に677名おり、区域外就学先の学校等を訪問・情報交換、町の保健師が家庭訪問する事業を実施。未就学児の把握が課題。支援が必要な子どもの保護者から町に放課後デイサービスがある福祉施設が欲しいという声もある。令和4年4月義務教育学校「学び舎ゆめの森」を開設、令和5年4月大川原の新校舎で再開予定。
- (檜葉町)今年度からは震災前のように「町勢振興計画」として、魅力ある教育、農業の再生、健康増進とスポーツの振興を大きな柱に政策を進めている。最大のミッションは移住・定住の促進による人口増。小中は中学校で共に教育活動をしているが、徐々に数が増えており、来年から旧南小学校の校舎で新たに檜葉小学校としてスタート、幼小中で学校運営協議会も組織予定。支援が必要な子どもの増加、保育士不足等が課題。
- (富岡町)ICTを活用した交流事業、スクールマネジメントアドバイザーの導入等実施。給食調理場を建設中。放課後子ども対策、富岡校の教育無償化の見直し、支援を要する子どもの就学前からのフォロー、令和4年の学校統合に向けた準備などが課題。町の伝承館「とみおかアーカイブ・ミュージアム」が7月に開館。震災に特化したものではなく、町の成り立ちなども紹介している。ぜひご来館を。
- (広野町)小学校は170、中学校は84名、計254名。ふるさと創造学では、中学校は地域の魅力の発見・発信・創造、小学校では浅見川の自然について学習。学校と地域がどう連携していくかが課題。未来学園の教職員と町立小中の教職員が教科の指導法や教材開発について協議する機会を設ける予定。未来学園とは校門前あいさつ運動等も連携して実施。未来学園との連携を他町村にも拡大していければと思う。

(意見・感想)

- (富岡町)郡内には特別支援を要する子どもたちが多い印象。震災前にあった児童デイサービスが必要ではないか。8町村が力を合わせて要望活動をし、誘致できれば、必ず効果は出るものだと考える。

### 3) ふたば未来学園中学校・高等学校活動報告

- 昨年度、SGHの継続事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」グローバル型の指定を受けた。3年間指定で今年度2年目。地域協働コンソーシアムを組織し、地域と教育、地域の復興と教育の相乗効果を出していこうと取組を進めている。
- 高校四期生の卒業間際のアンケートを見ると、88%が社会とどう関わっていくかを見いだした、90%が価値観・人生観を見いだしたと答えている。本校の学びが生徒たちにしっかりと吸収されていると感じる。
- 双葉郡8町村との連携は徐々に体制ができてきている。地域住民の方々に本校の取組がなかなか可視化されていないのが課題だが、フィールドワークでは8町村すべてを訪問。いろいろご協力・ご支援をいただきながら、子どもたちは学びを深めている。

- 本校の取組を通して、知識、スキル、人格、メタ認知をしっかりと育てていくため、開校以来、ルーブリックを作成している。毎年改訂。このようなルーブリック評価、生徒自身の自己評価も含めて成長を確認しながら、学びを展開している。

(委員意見)

- (復興庁) それぞれの町村の元気ある団体とコラボしながら、8町村の未来を担う人材を着実に育てていると感じた。我々もこうした取組も生かしながら今後につなげたい。
- (文科省) コミュニティスクールについては来年度から新たなアドバイザー配置等々、次の展開に向けた概算要求も検討している。不明な点は遠慮なく問い合わせしてほしい。

4) 【非公開】双葉郡教育復興ビジョン推進計画書第三期(案)について

5) その他

- (1) 委員からの情報共有
- (2) 今後の協議会開催予定
  - ✓ 来年の2月頃開催予定
  - ✓ 推進計画書は、本日の意見を基に教育長会で再度検討、次回協議会前に最終案を提示予定

4. 閉会